

阪神南地区社会教育委員協議会 研修会の発表内容（案）

テーマ：芦屋市における学校地域連携の取り組みと課題について

（発表者：古藪委員・田中委員）

★発表内容の構成★

- 1 芦屋市での活動について
 - （1）精道小学校「Smileねっと」について（2年間の取り組み）
 - （2）精道中学校「精中応援隊」について
 - （3）浜風小学校「浜風小学校地域支援本部」について
※その他，他校への波及
 - （4）連絡会の立ち上げ
 - （5）学校図書読み聞かせボランティア「本の虫ねっと」の紹介
※本の虫ねっと：平成22年度に各学校にある学校図書読み聞かせボランティアの連絡を発足
- 2 課題について（コーディネーター認知・育成）・組織の中心となる方たちの思いを踏まえて
- 3 社会教育委員として，どのように連携していくべきか（まとめ）
- 4 質疑応答

具体的な内容

1 芦屋市での活動について

昨年度この研修会で発表しました精道小学校における「Smileねっと」、精道中学校「精中応援隊」、浜風小学校「浜風小学校地域支援本部」などが、現在芦屋市で学校地域連携の取り組みとして活動しております。今回の発表では、それぞれの活動の取組について紹介させていただき、芦屋市における課題を皆様と共有し、社会教育委員としてどのように連携をしていくべきか考えたいと思います。

（1）精道小学校「Smileねっと」について

①学校地域連携促進事業

芦屋市では、平成22年度から2年間、兵庫県の委託事業「学校地域連携促進事業」として、兵庫県下6校の研究指定校に精道小学校が指定され、精道小学校区における学校・家庭・地域のより良い連携の在り方を目指し

研究を開始しました。当初は連携の方法について手探り状態でありましたが、児童会が命名した「Smileねっと」という愛称のもとに支援者を募り、①家庭・地域が力を合わせて学校を支援する中で、三者の連携強化を図り、学校を核とする安心安全の街づくりをすること。②学校は地域の力を借りてより良い教育環境を作り、家庭・地域は、学校に足を運ぶことで、学校の情報をより多く得ることができ、さらに自分が活躍する場を得ること。③子どもが、家庭・地域の方が学校を支援する姿を見て、自分たちがたくさんの方々に大切に見守られていることに気づき、将来地域で活躍できる大人に育っていく素地ができること。これらの3点にねらいに定め、2年間で以下のような取組を行いました。

②平成22年度・23年度の取り組み状況について

組織としては、事務局を教育委員会生涯学習課が行い、学校やPTA、地域と調整するコーディネーターを精道小学校児童の保護者で教育委員も勤めておられる方と元精道小学校教頭の2名。また、教育委員やPTA役員、コミスク役員、民生児童委員、福祉推進委員会代表等で構成される精道小学校の「開かれた学校推進委員会」を母体としたすまいるねっと幹事会が、事業についての相談・報告を受け、客観的な意見や評価をし、事業を進めてまいりました。

具体的な取組みとしては、

1年目は、

- ・Smileねっと幹事会の開催（年3回）・総会
- ・運動会の準備・後片付けの手伝い
- ・ボランティアによる図書館開館（一週間）
- ・すまいるねっと通信の発行（年2回）

2年目は、1年目の活動に加えて、学校支援ボランティアの組織化を図り以下のような活動を行いました。

ア.「Smileねっと」幹事会の開催（6・9・12・3月）

イ. 学校支援ボランティアの組織化： 図書・園芸・環境の3分野でのボランティア募集→登録（5月）

ウ. ボランティア合同説明会開催（5月）

エ. 図書ボランティアの活動

a. 学校図書電算化に伴う作業（6・7月）

- b.学校図書館の書架整理（9・1月）
- c.学校図書館、朝の開館（週3回）
- オ.園芸ボランティアの活動
 - a.花の苗の植え付け（6・12・3月）
 - b.花壇やプランターの整備（10・11月）
 - *園芸委員会の子ども達と共に活動
- カ.環境ボランティアの活動
 - a.運動会の前日準備・後片付け（6月）
 - b.校内クリーン作戦 7・9・10・11・12・2・3月（7・9月警報のため中止） *子どもと一緒に大掃除
- キ.「Smile ねっと」総会の開催（11月）
- ク.「すまいるねっとつうしん」発行（7・12・3月）
- ケ.登下校見守り調査（10～11月）
- コ.ボランティア交流会（12月）
- サ.水害に備える防災体験（コムスクとの共催）（2月）
- シ.東日本大震災被災地支援 ベルマーク集計（PTAとの共催）（2月）
- ス.見守り情報交換会（2月）

2年目は、「無理なく・楽しく・出来ることから」をモットーとし、地域のボランティアが、学校に足を運びやすいように配慮しました。

その結果、延べ1200人を超えるボランティアの参加がありました。

※発表では、この部分は長いので、資料をご覧下さいくらいにしておきたいと思います。

③2年間の取組みにおける成果について

ア学校側から見た成果

- ・保護者だけでなく地域の方にも学校に足を運んでいただくことにより、学校をより身近に感じてもらえ、さらに三者それぞれの意識向上・信頼関係の構築につながりました。
- ・各活動のお知らせ・すまいるねっとつうしんの発行により、Smile ねっとのことを広く知っていただき、学校・家庭・地域連携への共通認識を持つことができました。
- ・子ども達は、親や地域の方が学校に足を運んで下さることに対して、嬉しさや安心感を持つことができ、より生き生きと活動できました。

イ家庭・地域側から見た成果

- ・学校に足を運ぶことによって学校をより身近に感じられました。また、教職員と顔を合わせる機会が増えたことにより、信頼関係が構築され、子どもを安心して学校に通わせることが出来ました。
- ・地域団体においては、Smile ネットが新しい意見交換の場となり、学校や保護者と一歩踏み込んだ関係を構築することができました。

③新体制での取り組みについて

委託事業としては、平成23年度で終了しましたが、平成24年度からは地域と家庭が主体となり、Smile ネットと独自で活動を続けています。

今後の活動に反映するため、教員・児童・ボランティアにそれぞれアンケート調査を行い、活動の内容や進め方について検証を行ったり、「多くのボランティアが学校に入ることにより、これまでと同様に円滑な学校運営が維持できるのか」という意見をもとに「学校支援ボランティアのハンドブック（ルールブック）を作成するなど、迅速な意見の反映と行動力を持って活動を続けています。

新1年生の給食配膳支援や放課後こどもプラン事業として世代間交流を企画・実施するなど、新たな支援者と活動を増やしています。

このような、Smile ネットの取組みが、今芦屋市内の他の学校に広がりつつあります。

(2) 精道中学校「精中応援隊」について

Smile ネットの影響を受け、今年度新たに学校地域連携組織が立ち上がりました。

※別紙資料に基づき簡単に報告

- ①学校支援ボランティアのハンドブック作成
- ②ボランティアを募集し、7月に説明会を実施
- ③環境ボランティアを（月1回）、園芸ボランティア（原則第2月曜日）、図書ボランティア（月1回）、読み聞かせボランティア（月に2学年）の活動を行っている。

また、Smile ネットが発足する前から、芦屋市の学校支援活動の先進的な事例として浜風小学校地域支援本部がありました。

(3) 浜風小学校「浜風小学校地域支援本部」について

※別紙資料の内容に基づき簡単に報告

- ①学校支援ボランティアのハンドブック作成
- ②芦屋市放課後こどもプラン事業の一つとして「学びクラブ」を主催している。

他にも、潮見小学校でSmileねっとの活動を参考に、学校図書館の開室を開始するなど、少しずつではありますが、波及が進んでいます。

(4) 学校地域連携組織の連絡会立ち上げ

それぞれの学校地域連携組織が、情報を共有する場として、今年の7月に連絡協議会を立ち上げました。

現在、Smileねっと、精中応援隊、浜風学びクラブの3組織の役員が集まって、学期に1回情報交換を行っています。

(5) 本の虫ねっとについて

学校地域連携組織ではありませんが、市内の各小学校（中学校では2校、幼稚園は1校）には、PTAが中心になって組織されている学校図書館の読み聞かせ組織の連絡会がありますので、ご紹介させていただきます。

※別紙資料の内容に基づき簡単に報告

3 課題について（組織の中心となる方たちの思いを踏まえて）

- ・コーディネーターの認知
- ・コーディネーターの安定的確保
- ・コーディネーターの育成
- ・ボランティア意識向上のための研修
- ・予算の確保
- ・ボランティア拡大のための方策→取り組みやすい時間帯等を設定するなど

※課題については、意見交換会での意見を盛り込む予定です。

4 社会教育委員としてどのように連携していくか（まとめ）

※この項目については、意見交換会で議論していただき、後は発表者のお2人と詰めたと思います。

5 質疑応答

以 上